

全国的に警報レベルは続く、3月半ばまでは警戒が必要か

インフルエンザ流行がピークアウト

流行ウイルス、AH3亜型の割合が増えAH1pdm09を上回る

2019/2/8

[インフルエンザ診療Next取材班](#)

インフルエンザの流行がピークアウトした模様だ。各都道府県がまとめているインフルエンザ定点当たり報告数（速報値）によると、2月3日までの1週間（第5週）に全国の定点医療機関を受診した患者数は、定点当たり43.24人と前週の57.09人から減少した。ただし、依然として全国的に警報レベルを超えており、引き続き感染対策に取り組む必要がある。

第5週に最も定点当たり報告数が多かったのは埼玉県で、65.68人だった。これに、新潟県（62.51人）、宮城県（58.77人）、千葉県（56.89人）、大分県（52.14人）、石川県（51.73人）と続いている。

ピークに達してから警報が解除された週（目安である10人を切った週）までの期間は、A/H1N1pdm2009が季節化した2011年以降、5～10週で推移しており、平均で8週だった。この傾向が続いた場合、今シーズンは3月半ばごろ（第11週）まで警報レベルが継続すると推測される。

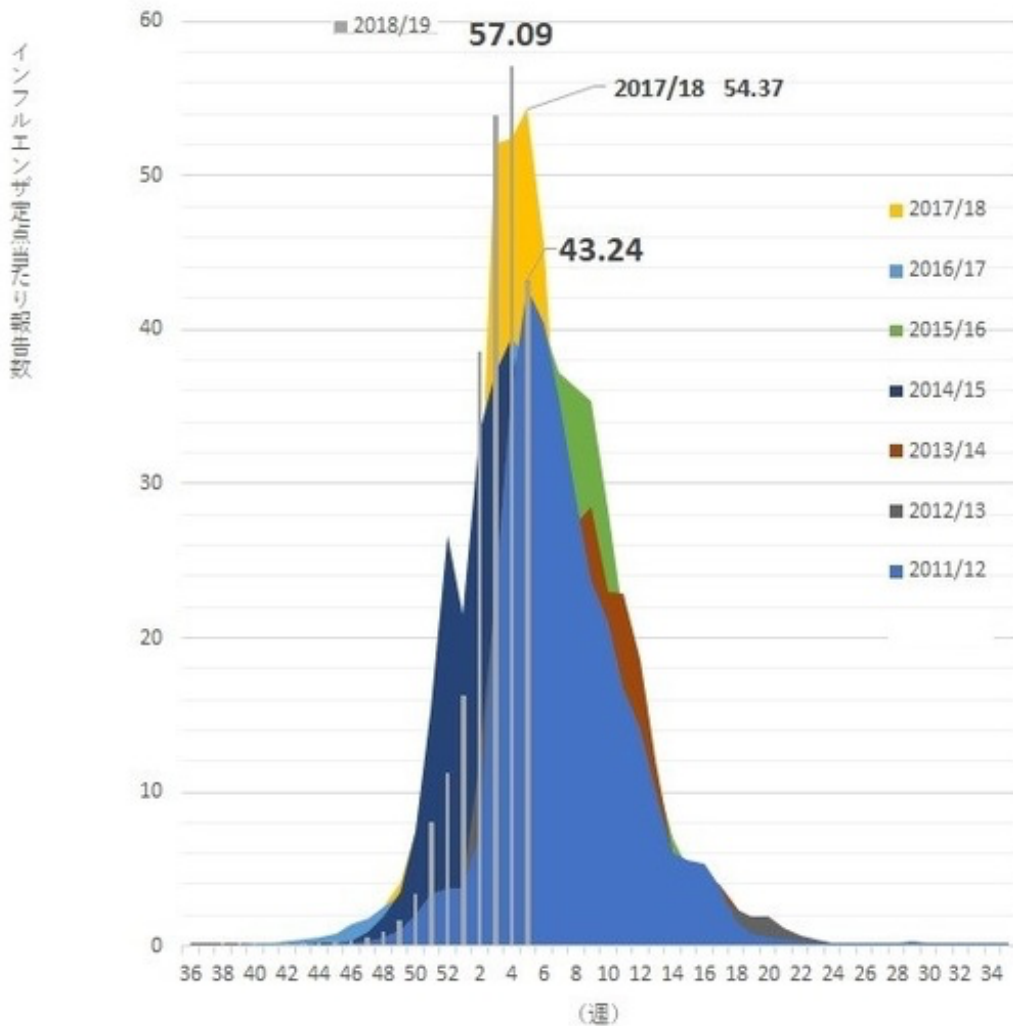


図1 インフルエンザ流行の動向

(各都道府県がまとめているインフルエンザ定点あたり報告[速報値]をもとに作成)

流行ウイルスはAH3亜型が首位に

国立感染症研究所の週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数（2月7日時点）によると、タイプ別に見た流行ウイルスの順位に変動があった。これまで主流だったAH1N1pdm09の割合が減少する一方、AH3亜型が増加。直近5週間ごとの推移を見ると、第1～5週でAH3亜型が52.9%となり、AH1N1pdm09の46.2%を上回った（図2）。主流ウイルスの順位が変わったのは、今季初めて。なお、B型は、山形系統、ビクトリア系統ともに、0.4～0.8%と少なく、今のところ変動はうかがえない。

今シーズンの流行ウイルスの割合は、第5週までの累計で、AH1N1pdm09が59.4%と最も多い。AH3亜型は、38.4%と4割近くに増えている。B型の山形系統とビクトリア系統は、ともに0.7%だった。

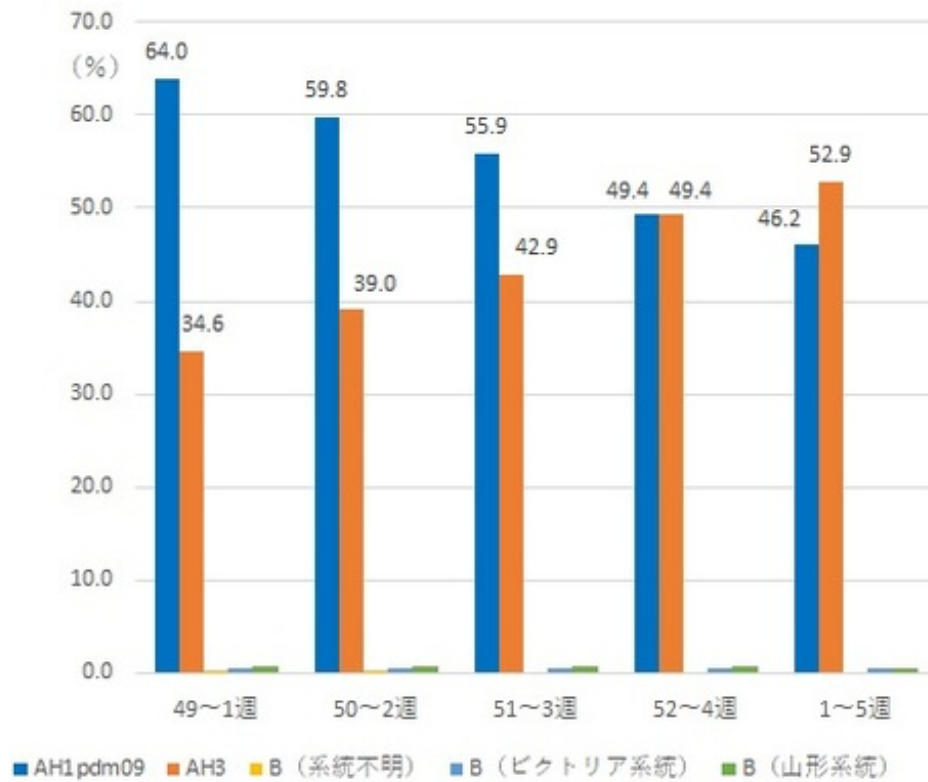


図2 直近5週ごとに見た流行ウイルスの割合の推移

(国立感染症研究所の週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数を基に編集部で作成)